



研究者名※	宮井 和恵 MIYAI Kazue	学位※	教育学士
所属※	人間社会学部 教育学科	職名※	特任教授
連絡先	miyaik@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/atE2oKcYkTgP8ipL		
研究分野※	社会科学分野 教育学		
研究キーワード※	国語科教育 語彙指導 国語科学習指導要領		
共同研究・競争的 資金等の研究課題			
社会貢献・産学官 連携活動等	・各種標語・作文コンクール審査・講評(2005～2015 年度) ゆめ作文コンクール・上下水道作品コンクール・MOA 美術館作品コンクール等 ・日本国語教育学会 川崎支部研究会で、国語科の実践発表 (2008 年 6 月) ・川崎市立小学校国語教育研究会会長 (2013～2015 年度) ・文部科学省国語科学習指導協力校・川崎市国語科研究推進校校長 (2013～2015 年度) 「届けよう 受け止めよう ことばと心」～ 一人ひとりが生き生きと表現する言語活動 ～ ・神奈川県小学校教育研究会国語部会長 (2015 年度) ・読書のまち・かわさき事業推進委員 (2015 年度) ・川崎市多摩・麻生地区国語主任研修会で、講演「ことばと心」(2015 年 6 月) ・川崎市国語科研究推進校(3校:宮前平小・百合丘小・日吉小)の研究会講師 (2012～2020年度) ・國學院大學主催「国語実践フォーラム ～豊かな言葉の学び手を育てるこれからの国語教育～」 「書く」領域実践報告分科会の講師 (2015年) ・「ことばの会」(川崎市)の新春放談「講演」会での講演「私の学校経営」(2015 年 2 月) ・川崎市多摩区役所児童家庭課 こども教育相談員 (2015 年度) ・川崎市立百合丘小国語科研究推進校研究発表会での講演「これからの国語科教育」(2017年1月) ・川崎市立犬蔵小学校国語科校内研究会 講師 :教員研修会「国語科授業づくり」講師 (2017～2019 年度) ・川崎市立旭町小学校国語科校内研究会 講師 (2019 年 6 月) ・不登校児童の学習支援(NPO 活動)(2018～2020 年度) ・オークランド(ニュージーランド)日本語学校で講演 「これからの日本の教育と国語科授業づくり」 (2018 年 9 月) ・東京都式根島小学校国語科研究会 講師 (2019 年 8 月) ・「日本語・学習サポート教室」のコーディネーター(NPO 活動) 外国につながる子どもたち(小・中学生)のためのサポート:日本語・教科学習支援 (2019～2020 年度) ・ラスベガス学園(日本語学校:アメリカ合衆国)で講話 「日本の国語科教育が目指している身に付けさせたい力」 (2020 年 1 月) ・川崎市教科書選定委員 (2017～2022 年) ・川崎市教育委員会主催のプレスクールの指導 入学前の外国につながる子どもやその両親に向けての指導 (2020～2022 年)		
受賞歴	・感謝状受賞 モンゴル国の幼稚園経営者視察セミナーで日本との交流への協力に対する感謝状 (2015 年 3 月) ・文部科学大臣表彰(子ども読書活動優秀実践団体) 校長として活動を指導・支援してきた川崎市立宮前平小図書ボランティアの活動が県の優秀団体に選出。その後文部科学省からも表彰。(2015 年 4 月)		

研究領域	教科教育学(国語科)	(SDGs)  4 質の高い教育を みんなに
研究テーマ※	国語科教育と語彙 ～語彙力をつける教育とその背景～	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	【研究の背景・目的・内容】 私達の使う言葉は、その時代の流れとともに変化し、近年は、その変化の速度も大きくなっている。また人々の言葉への意識にも変化が見られ、言語社会は、これまで以上に多様性を有している。 学習指導要領(平成 29 年告示)では、改訂のポイントとして「語彙指導の改善・充実」を掲げている。語彙指導やコミュニケーション能力について考察した。 【応用例、研究の展望】 語彙の意味を引くと、「(vocabulary)一つの言語の、あるいはその中の特定の範囲についての単語の総体。」(広辞苑:第六版)と書かれている。「彙」は「集める」という意味であり、もともと「ハリネズミ」を表す漢字だった。松川(2017 年)は、「語彙」を「ハリネズミ」のイメージを借りて「ハリネズミの 1 本 1 本の針は一つ一つの語(語句)に相当し、その針の集まったハリネズミが語彙を表す。」と述べている。つまり、「語彙」は、「語」「単語」(word)とはその意味合いが異なっているのである。 平成 29 年告示の小学校学習指導要領解説(国語編)では、語彙指導の系統が示され、「話や文章の中で使いこなせる語句を増やす」と説明されている。 1・2 年・身近なことを表す語句 3・4 年・様子や行動・気持ちや性格を表す語句 5・6 年・思考に関わる語句 小学校教育現場では、国語科の授業だけでなく他教科の授業でもこの語彙系統を意識して、児童の語彙拡充のために教師の意図的な働きかけが、日々必要となる。語彙には、理解語彙と使用語彙がある。過去の定義づけでは、玉村(1984 年)は、「理解語彙というのは、ある個人(または、ある学年の児童など)が聞いたり読んだりするときに理解することができる見出し語の集合であり、使用語彙(表現語彙)というのは、ある個人(または、ある学年の児童など)が話したり書いたりするときに用いることができる語の集合であると述べている。 盛岡(1951年)の調査によると、一般的に母語が日本語の成人(20歳)は、理解語彙が4万5000～5万語、13歳では3万語前後、満年齢で6歳になる子供の場合5000～6000語という結果が出ている。 国語科教育には、使用語彙・理解語彙力を高め、文化審議会答申(2004 年 2 月)で示されているような国語力向上を目指すことが求められている。中でも、言葉を介したコミュニケーション能力を一層向上させるためには、柔軟な言語理解や状況に応じて言葉を選択することも必要となる。語句の意味や使用法に関する認識を深めながらも想像力を働かせ相手の意図を酌み、相手の伝えたいことを推し量る思考力を育てることが大切である。語彙の拡充は、自分の考えを形成し表現する力を高めるだけでなく、豊かな思考力を育むことになる。言葉は、変化するものであるという認識もどこかでもちながら、想像し考えるための語彙を増やすことは感性・情緒等の基盤にも繋がり、幅広いコミュニケーション力や好ましい人間関係を高めることに発展する。	
本研究関連 特許・論文等	・国語川崎 ～研究会誌・実践集～ : 分担執筆 2003～2015 年 毎年 4 月発行 ・「国語科の指導計画作成と授業づくり」共著 2009 年: (高木展郎・白井達夫・茅野正徳・宮井和恵・須山佳代子・井上恵子・新垣英一・丹羽正昇・深沢恵子) ・実践国語研究(NO.330)4.5 月号「言語活動の充実を図る言語活動の整備」2015 年 3 月 ・論文:生きて働く言葉の力を育む国語科教育 ―国語科における言語活動を通じた言語能力育成の授業づくりとその教え― (日本女子大学教職教育開発センター年報 第 3 号)2016 年度 ・論文:学習意欲を高め「主体的な学び」を促す国語科教育 ―資質能力育成に繋がる主体的な学び― (日本女子大学教職教育開発センター年報 第 5 号)2018 年度 ・論文:国語科教育と語彙力 (日本女子大学教職教育開発センター年報 第 7 号)2020 年度	
共同研究・外部機関 との連携への期待		